

響陽会館複合交流施設整備特別委員会

議案第1号 令和7年度鯖江市一般会計予算の説明に加えて、基本設計を反映した響陽会館複合交流施設のイメージ図や平面図を基に、中庭の室内化や子どもの遊び場の整備方針、多目的ホールの防音対策、完全休館による工事期間中の安全対策と工期短縮を目指した整備スケジュール案、ランニングコスト低減に向けた省エネルギー対策、および響陽会館前駐車場の整備計画案や今回の整備事業に伴う概算事業費と財源など、現時点での市の方針が示された。

問 響陽会館の本来の目的である会議室の機能や多目的ホールの機能について、今までのレベルを落とさないようにしていけるのか。

答 これまでの機能よりも、さらに利便性向上を図りたい。会議室の機能については、人数や用途に応じて区切ることができる会議室や、多様な人材が集い交流できるスペースなどを整備することで、より多様な用途に対応でき、個々のニーズに合わせた柔軟な利用が可能となる。ホールもこれまでの固定ステージを撤去し、移動式ステージを導入することで、催事に合わせたレイアウトができるようにする。また、これまで重たくて設営しづらかった椅子やテーブル、展示パネル等も入れ替える予定で、利用しやすいホールを目指している。

問 新たに工期短縮を目指した整備スケジュール案が示された理由は。

答 ワークショップやパブリックコメントで意見が多かった中庭の室内化をすることになり、これまでの計画どおり部分閉館しながら工事を行う場合、安全対策のためのバリアード設置などが必要となったが、より安全性を高めた中で工事をすることが良いとの判断の下、完全休館をして工事を進めることになったのが最も大きな理由である。完全休館をして工事を進めることで、工期の短縮や工期短縮による事業費の抑制を図ることができるなどのメリットが大きいことから、新たな整備スケジュールを策定した。

問 緑地部分を削って、もう少し駐車台数を増やせないか。

答 響陽会館のそれぞれの施設利用者数から、必要な駐車台数を算定している。駐車台数を増やすためにさらに緑地を削っていくことについては、賛成・反対など様々なご意見も伺っている。利便性が向上し利用者の方々に喜んでいただけるよう、検討を進めていきたい。

問 施設の管理運営について、複合化という新しい取組に対し、指定管理制度を導入して市が全く関与しないというのは無責任ではないか。2、3年直営も考えてはどうか。市内・県内に限らず、県外の事業者等も入れて検討してはどうか。

答 現在は、令和10年秋から指定管理者による管理運営を予定しているが、今後、施設の管理運営の仕様書を検討する中で、候補者になり得る事業者との意見交換を進めていく。複合化施設の管理運営には企画力や運営力が必要となるため、事業者については、県外にまで対象を広げたり、共同企業体も視野に入れたりしながら検討したい。また、指定管理に限らず、直営も含めた最適な管理運営の手段を慎重に検討していきたい。

問 響陽会館とNPOセンターの2施設を複合化し、屋内遊戯施設については別途新設すべきではなかったのか。

答 公共施設の床面積を20%削減することを目標に取り組んでいる中、将来の人口減少や財政負担を考えた場合、施設を新設することは難しいと考えている。また、この複合交流施設では、文化・市民活動・子どもの遊び場、これら3つの機能が融合することで、多世代交流が生まれ、鯖江の新たな文化が生み出され、新たな体験ができる場となることを目指していきたい。

各委員から出た意見や要望等についてしっかりと協議し、組み入れるべきものについては積極的に組み込むとともに、市民からの意見も十分に反映させるよう申し入れを行った。

